

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 13 日（月）午後 7 時 30 分～午後 9 時 10 分
- 2 開催場所 京丹後市立宇川中学校体育館
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、水野教育次長、和田部長、渡部企画総務部長、藤原財政部長、藤村企画政策課長、東市民局長、栗倉教育総務課長、吉田文化財保護課長、山下学校教育課長補佐、長尾指導主事、横島文化財保護課長補佐

地元出席者 53 名

報道 毎日新聞、京都新聞

4 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画（素案）
②京丹後市立学校施設の耐震化計画（素案）
- (3) 質疑応答

5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画（素案）説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画（素案）説明 省略第一回目を参照。

質疑応答

（市民局長） 30 分ほど説明してきた。次に質疑の時間とする。さしさわりの方は、氏名のあとに発言して頂きたい。

（出席者） 市長は、子供が住みたい地域と言った。宇川地域は周辺の辺地である。宇川から大宮や峰山に若者が移住する。さらに宇川中学校が統合されると、よりいっそう過疎に拍車がかかる。市内の均衡ある発展といったが、宇川は限界集落、準限界集落が多くある。学校の統合によりいっそう若者が定住しにくくなるのが現状である。周辺の辺地の開発についてはどういう風に考えているのか。

（市長） 宇川の自然はすばらしい。すばらしい海、山、自然環境がある。それを活用した交流、農林水産業などの多くの可能性のあるところだと思う。観光を考える面においても、多くの可能性のある場所だと考える。一方、子供のこと、学校の問題について分科会、検討委員会で議論してきた。子供にとってどういう学校環境にするのか。一定の児童生徒数の規模を確保することが必要だとの思いから再配置を進めている。学校がなくなると地域が廃れるというのも良く

わかるが、一定の規模の学校を実現するのが宇川にとって必要だと思う。

(出席者) この説明会は、どういう事情で本日することになったのか。この説明会が遅すぎるのではないか。地区の方からぜひこうしてほしいという中での話ではない。宇川中学校をなくすという問題である。だったらもっと早く説明会があつてしかるべきだ。不信感を感じる。

(教育長) 平成 19 年の 3 月議会に学校再配置について話があり、分科会・検討委員会を組織してまとめ、昨年 11 月に答申を頂いた。それに基づき教育委員会で案をたて、2 月、3 月に要望のあるところについては、説明会を開催してきた。その結果、計画案をたて議会で説明もしている。今回はその内容について丹後町から順に説明会を開催しているものである。

(出席者) 宇川は、学校がなくなってしまう計画の場所である。農協にしても、金融機関にしてもなくなる話ばかりで、益々暮らしにくくなっている。宇川は、振興から逆行している典型的なモデルケースだと感じている。根本的な認識のズレを感じている。

(市長) 地域の振興についても、これから丁寧に説明していきたいと考えている。

(出席者) 本日の説明会で、この問題は終わりなのか。宇川地区の関係者を集めて丁寧に意見を聞いたりするという、基本的な部分が落ちているのではないか。意見を聞いて集約する。また説明をして意見を聞く。そういうことが必要ではないか。また学校の統合の問題と耐震化計画がいっしょにあることがおかしいと思う。公教育の関係から統合は提示するものである。本来どういうことが望ましいかを提示するものだと思う。また従前の統廃合は 2 年、3 年と議論してきた経過がある。この問題は賛成、反対で整理されたら困る。

(教育長) 耐震と学校の再配置はイコールではない。当初は、耐震化について国の補助制度が現行のように整備されていなかった。この計画を検討しているときに国の補助制度が整備されてきた。耐震補強がより整備され、財政支援が可能となってきた。耐震化の検討を加える中で内容がかわった点もある。今後の耐震診断の結果を踏まえて検討することになる。説明の中で余り触れなかったが、何の為に再配置をするのかということは資料に明記している。また、学校がなくなった後の地域の活性化については今後検討すべき課題だと考えている。

(市長) この再配置の取り組みについては、各町ごとの分科会で 20 人程度のメンバーを組織して 10 回近く議論を積み上げている。統合と現状維持という意見が、半々の状態である。生徒数では宇川中学校は昨年 50 人だったのが現在 41 人、平成 27 年には 37 人と報告されている。本市として、地域住民の理解を得ることが必要である。

(出席者) 2 点について質問する。連日この学校再配置の問題は、新聞紙上で報

道されている。そのことについてどういう風に考えているか。分科会の一員として検討してきた。検討委員会でも宇川中学校の統合と現状維持は半々という内容である。間人中学校の耐震問題からすると、間人中学校を宇川中学校に統合したほうが良いのではないか。

(市長) 説明会では再配置に賛成で、望む意見も聞いている。保護者の皆様の意見を聞きながら、子供達にとって何が良いかということを検討し、深めていきたいと考えている。

(教育長) 耐震の問題を考えると、間人中学校から宇川中学校に統合したらどうかということだが、平成 25 年には宇川中学校は生徒 30 人、間人中学校は 131 人となっている。統合を考える場合に生徒数のことが 1 つある。ただし、間人中学校は耐震 2 次診断がどうかという問題があるために、その結果がでないと最終の結論はでない。

(出席者) この体育館は音響が悪くて内容がわからないので、今後は区民館をとって欲しいと考える。間人中学校と宇川中学校の合併の話があるが、丹後町では間人中学校の土壌が非常に悪いと認識している。その辺はどうか。

(教育次長) 間人中学校については、建設の際の調査データがあると思うので、調査したいと考える。

(市民局長) 音響の件で、区民館等の説明会の場所については、そういう方向で問題ないと思う。

(出席者) 地域をどうしていくかということが大切だ。地域の子供達が、自分達の地域に誇りを持つことが大切だと思う。小学校、中学校が連携して教育について考えていくことが必要であり、小規模校だからこそできることがある。小さい学校を生かすことも必要だと思う。間人中学校に統合されても根本的に解決できるのかと疑問だ。クラブ活動のみ、間人中学校に行くということもできるのではないか。地域の子供達が地域に誇りを持てるような方策を考えてほしい。

(市長) 今回の学校再配置は学校をなくすという観点でなくて、地域がより広域になるという面で理解いただきたい。地域に対する愛着をどうするか。学校の跡利用として、今まで宇川の子供しか使用しなかったものを、丹後町中の子供がこの学校で活動するというようなことも検討していただきたい。それが地域に対する愛着を深めていくことにつながる。

(指導主事) この学校に平成元年～9 年まで 8 年間お世話になった。当時は 2 クラスあった。本校の良さは実感している。小規模校にはそれぞれの良さ、中規模校にはそれぞれの良さ長所がある。中学生になると、少し大きな集団で子供達どうしが練りあうことが、社会性を育成する上でも必要だと感じる。小さな

集団だとどうしても、子供どうしの関係が固定化される。複数あれば、子供どうしも自分の位置を確立することができる。また中学生ではクラブ活動が大きな役割を果たしている。宇川中学校のような規模では、様々な種類のクラブを組織することが難しい。新学習指導要領の中でも、クラブ活動が位置づけられている。小規模校では、はじめから結果がわかり子供達の意欲に結びつかない例が考えられる。中規模になると、複数の教員の体制、加配などの体制などを組み込むことも可能である。子供の教育を考えると、現実には即した考えも必要でないかと考える。

(出席者) 宇川の人口が減少してきているのが現状であるが、宇川の人口を増やす方策を検討できないか。大丹後王国ということをして PR していたが、ある地区では区長の公募も行い反響があった。こういう風に 1 家族でも宇川に人を呼び込むことができないのか。仮に、統合しても、将来、宇川中学校が復活することの夢をみたい。人口が減少する前提で話しているが、宇川が発展するためにも、1 家族でも 2 家族でも増える方策を検討してほしい。

(市長) 宇川は魅力がある。健康について 112 歳の木村さんもいる。時代が求めているのは健康、環境などであり、それをどう磨いていくのかという観点が必要だ。道路整備を着実に進め、次の子、孫の時代には宇川は良くなると信じている。

(出席者) 再配置計画を見ると、宇川小学校も平成 25 年に間人小学校に統合となっているが、そうか。

(教育長) 太枠の第 1 案が教育委員会の採択案となっている。宇川小学校が統合するのは第 3 案である。

(出席者) 他の地域で、小中一貫校というのを見た。宇川小学校、中学校を小中一貫校という構想はないのか伺いたい。

(教育長) 小学校と中学校の連携は可能だが、小中一貫校は小学校と中学校の 9 年間ということで制度的にハードルが高い。ある程度の規模が必要となる。

(出席者) 41 名の中学生が地域に対して大きなメッセージを出している。例えば、「今やらねばいつやる。」「自分がやらねば誰がやる。」そういう指導をしていた先生方にも感謝している。小規模校、宇川中学校のことを考えて伸ばす教育をしてほしい。

(教育長) 宇川中学校の取り組みについては承知しており、努力していることは良く聞いている。

(出席者) 息子が中 3 で、娘が小 4 である。私はこの学校を残してほしい。子供達と先生と地域の皆様がいっしょになって作り上げる学校だと思っている。どうしても統廃合となった場合は、鞍内は宇川の校区では最も距離的に遠くなる。

毎朝夕の送迎をしてくれるのか。朝寝坊をした場合も対応してくれるか伺いたい。

(教育長) スクールバスなどの通学の支援策をたてる。朝寝坊した場合等、個別の対応については、検討しないとわからない。

(出席者) 本日の説明会の位置づけはどうか。また説明会を開催してくれるか。

(市長) 今回の説明会は7月～8月にかけて回る計画にしている。耐震診断の結果により再配置に影響があるものもあり、それらについても今後対応していく予定だ。

(出席者) 本日の説明会では、地域が説明した内容に対して理解したとは言いがたいと思うが、そういう認識でよいか。

(市長) 本日の説明会で、理解が得られたとは考えていない。今後も説明会を開催して、丁寧に説明させていただく。

(出席者) 宇川中学校の説明会については、本日が終わりということではないと考えてよいか。

(市長) 学校再配置については、議会からも9月提案にはこだわらないと意見を聞いている。今後とも計画する場合には何度でも説明会をしていく。